

三重県私費海外留学生体験記
稲葉 暁さん（アメリカ・ピッツバーグ）
ピッツバーグ大学 国際開発学専攻

2019年1月更新

・専攻している科目の学習状況について

1学期目は国際関係学大学院や自分の専攻の基礎となる必修科目を履修する必要があります。統計学入門、ミクロ経済学、開発政策学、地理情報システム(GIS)を履修しています。

統計学入門では、統計学の基本的な要素やSTATAという統計ソフトの使い方を学んでいます。毎週課題が出ますが、計算など非言語的な要素が強いため、他の科目に比べると予習、復習等にかかる時間は少なく済んでいます。

ミクロ経済学は、需要と供給、市場経済、労働力など経済学の基礎を学んでいて、基本的な理論の他にグラフを用いて数量がなぜ変化するのかを理解することに重点が置かれています。

開発政策学は、開発学の基本的な歴史や理論、政策について学んだ後、途上国の教育やガバナンスなどの問題について背景や政策を学んでいます。他の科目に比べるとリーディングの量が多く、1週間に200~300ページぐらいのリーディングが課されることも珍しくありません。また課題には実際の NGO や政府機関で書かれる政策文書を作成が課される等、実践を意識した科目となっています。

地理情報システム(GIS)は、ArcGIS というデータを可視化するソフトの使用方法を学んでいます。統計学同様、非言語的な要素が強いため、それほど難しくなく感じますが、初めて使用するソフトのため、慣れるまでは非常に多くの時間を費やしました。

・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

ピッツバーグ大学の国際行政大学院は、神戸大学大学院国際協力研究科と交換留学プログラムの提携をしており、留学説明会の際に、留学希望者からの日本での生活全般についての質問に答えるボランティアを行いました。

・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会はありますか。

日本について紹介するイベントは特にないですが、大学院が国際関係ということもあり、日米の生活習慣の違いや価値観、物の考え方、また三重県の産業や観光地などについて、普段の会話の中で紹介するようにしています。

2018年10月更新

・あなたの留学の目的は何ですか。

私はバングラデシュの日本大使館で3年間勤務し、現地での生活及び勤務を通して、守るべき交通ルールがないために発生している慢性的な交通渋滞が経済活動に負の影響を与え、また現地の政府機関職員が手続きを円滑にするために善良な市民に賄賂を要求することも珍しくない状況に衝撃を受け、途上国の発展を妨げているのは行政の適

切な都市計画や管理の欠如が原因であり、現場レベルでの問題解決が不可欠であると痛感し、実践的なマネジメントと途上国での都市計画の専門知識を習得したいと思い、同分野で強みのある海外の大学院で学ぶことを決意しました。

・専攻している(する予定の)科目の学習内容について書いてください。

ピッツバーグ大学の国際開発学修士課程で都市計画を専攻する予定で、公共政策の基礎である経済学、統計学、公共政策分析や都市計画の理論・実践、地理情報システム(GIS)の応用や持続可能な地域発展の計画などの都市計画の知識やスキルを習得します。また、修士課程修了には300時間のインターンシップが義務付けられているため、夏季休暇中には途上国のNGOでインターンシップを行う予定です。また、大学院生による国連開発計画ワーキンググループがあり、成果をニューヨークにある国連本部で発表するなど、ローカルでありながら、グローバルな活動もあります。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

ピッツバーグ大学の申請には、履歴書、志望動機を含むエッセイ、出身大学の成績証明書、大学時代の教授および職場の上司からの推薦状が必要でした。また、アメリカの大学院への申請に必要な基礎学力を測るGRE及び留学生の英語力を測るIELTSのスコアも必要であったため、それぞれ受験し、出願時にスコアを提出しました。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

国際関係大学院協会(APSIA)のホームページにある大学院のリストを参照し、自分の希望する履修内容に近いプログラムを探しました。また、東京で同協会が主催する留学フェアがあり、同協会に所属する大学院の選考関係者が出席していたため、参加して直接選考に関する情報収集を行いました。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

専攻するコースのプログラムが自分の希望する内容に一番近かったことと、GIS技術の習得や300時間のインターンシップが必修であるなど、より実践的なカリキュラムであった点です。